

次の自分にタスキを渡すために

先週金曜日の午後、二年生が総合的な学習として取り組んだ「高校・専修学校調べ」の発表会がありました。班ごとに担当学校を決め、自分たちが調べたことを発表しました。一生懸命調べたからということだけではなく、いよいよ三年生になるのだという緊張感から、二年生の生徒たちは真剣に取り組んでいました。

今はほとんどの生徒が中学卒業後に進学をします。生徒の皆さんも、保護者も、そして教師の私たちも「進学ありき」で三年という学年を迎えがちです。「受験があるから勉強しなければならぬ」「受験があるから生活を充実させなければならぬ」「など」とよく言われますが、受験のために勉強や生活が、更には中学校があるのではありません。進学は進路選択の一つの方向に過ぎないのです。したがって、生徒たちの目の前に進路をぶら下げて、全力疾走をさせることは避けたいと私は思っています。

進学を目指すなら勉強をがんばるのは当たり前です。だれに言われなくても、当然やるべきです。言われてしかできないければ、進学を甘く考えていると思われても仕方がないでしょう。自分の意思で進学を選ぶのなら、自分で責任を取るべきです。それなら、進学しない者は勉強しなくてもよいのかと思う人もいるかもしれませんが、私はそうは思いません。勉強は、とりわけ義務教育における勉強は、だれもが努力して確実に身に付けるべき基本です。九年間の出口が進学でない者も、身に付けるべき力として考えなければなりません。

少し説教っぽくなってしまいましたね。私が言いたかったのは、人生が十数年前に始まったばかりの皆さんには、中学三年生という時期は、人生初めての中継地点へのラストスパートだと考えてほしいということです。その中継地点でタスキを待っている次の自分は「学生としての自分」かもしれないし、「社会人としての自分」かもしれない。いずれにしても次の自分にたすき渡す時に、失速してはだめだということです。したがって、中学三年という時期は、全てにおいて全力疾走で臨まなければなりません。そういう意味で、勉強しなければならぬのです。生活も充実させなければならぬのです。

こう考えると、中三を控えた二年生の皆さんは、一秒でも早く次の自分にタスキを渡すためにこれからペースを徐々に上げていくべきです。三年生の皆さんはもう中継所にいる次の自分が見えてくるはず。今のスピードを緩めてはいけません。一年生のみなさんは、まだ中継点が見えてきていません。このペースを落とさずに走り続けてくださいね。